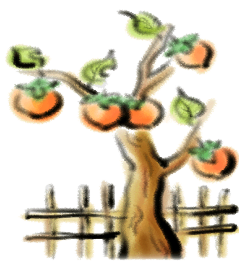


伊賀市上野西部 公民館だより



第138号

平成26年10月15日

編集発行:上野西部公民館

所在地:伊賀市上野福居町

TEL・fax 0595-23-9779

上野西部地区の人口 世帯数 1,467 人口 3,339 人(内男 1,585・女 1,754) 26.9.30 現在

国指定重要無形民俗文化財

上野天神祭



10/23 宵宮祭

宵山

東御旅所において午後7時から

本町・二之町筋にて午後7時～9時までだんじりに提灯等点灯

10/24 足揃の儀

三之町筋において午後2時～4時まで鬼行列の練行

宵山

本町・二之町筋などにて午後1時～4時頃までだんじり曳行

午後6時30分頃～9時頃まで本町・二之町筋等だんじり曳行

10/25 本祭

午前9時東御旅所出発 午後4時頃三之町筋にて終了

台風18号19号 接近 消防団待機

台風18号接近により 10月5日21時30分より消防団 22時30分より市職員が上野西部公民館(市民センター)にて 待機しました。幸い被害が有りませんでした。天災が人災に成らないよう 日頃から防災に気をつけてください。(10月13日は消防団のみ)

お願い

上野西部市民センターでは、市職員と共に台風等災害が発生すると思われる時や災害発生時には 市民センターに待機しています。被害を受けた方は まず自治会長(⇒市民センター)に報告してください。支援が必要な場合も電話(23-9779)してください。消防団の方々も待機しています。

上野西部笑運動会

11月2日(日)

楽しく 笑いの中で 体を 鍛えよう。

詳しくは チラシをご覧ください。 たくさんの参加をお待ちしています。

上野西部地区住民自治協議会健康福祉スポーツ部会

上野西部地区慰霊祭

9月21日(日)午前10時から 菅原神社鎮
霊社於いて 上野西部地区戦没者慰霊祭が
執り行われました。

宮司祭祀奏上に続き上野西部自治協会長の
祭祀 伊賀市長・市議会議員・遺族会会長
から追悼の言葉が述べられ その後玉串の
拝礼が行われ 遺族会第二分会長よりお礼
の言葉があり 慰霊祭は冥福を祈り新たな
誓いをたて終わりました。



上野西部グラウンドゴルフ大会



台風19号の影響を心配しながら
の第25回上野西部グラウンドゴルフ大会が
10月12日崇広中学校
グラウンドにて開催されました。芭蕉
祭の関係か参加人員46名と少ない
でしたが 珍プレー・好プレー続出の
熱戦が繰り広げられました。

栄えある表彰者は次の皆さんでした

	男子の部	女子の部
優勝	北岡義雄	伊藤順子
準優勝	橋本弘	中野愛子
第三位	安本文雄	善田つね



健康ウォーキングin醍醐寺



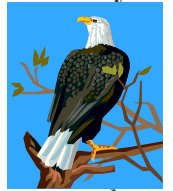
女人堂にて 山頂目指して出発

9月27日(土) 絶好のウォーキング日和 8時上野西部公民館を37名の参加を得て出発。醍醐寺総門よりウォーク開始、日頃歩き馴れない山道を休憩をとりつつひたすら上醍醐へ、山頂・開山堂へ到着 展望台ではるか彼方に阿倍野ハルカスを望みながら お弁当をいただきました(寺内は飲食禁止です許可を取りました)。若干の疲労者が有りましたが全員無事に下山しました。仁王門から金堂・五重塔・不動堂・観音堂などを拝観しました。帰路に10月1日に鳳凰堂平成修理落成式が行われる宇治平等院へ立寄り真新しい鳳凰堂等拝観しました。今回のウォーキングは山道がきつく距離約10^キ。歩数18,140歩で翌々日の筋肉痛に悩まされました。



阿倍野ハルカス





山繭上野句会 九月 指導 宮田正和先生

鷹渡りきつたる島の影の濃し

宮田正和

廢校は鳩鳴くばかり秋の雲

森中香代子

秋の雲春日大社の赤き千木

池住律子

岩礁を蹴って秋潮立ちにけり

佐々木経子

夕月を子と携帯に愛づ夕べ

森岡了子

菩提寺に花を届ける良夜かな

田端昭子

帰燕いま遙か海境けぶらへり

中島邦子

青ペンで直すレポート夜長かな

竹岡英子

コスモスや家老屋敷の船着場

森永康子

新米を炊いて三角おにぎりに

森岡安代



上野城 薪能

秋の恒例行事 上野城薪能が10月4日午後6時から 上野本丸広場特設舞台で演じられました。

和泉流野村又三郎さんらによる 狂言棒縛に続き、観世流 能 船弁慶が演じられました。シテ方(静御前・知盛)を務められた武田邦弘さんは 上野西部公民館で謳楽会を指導されています。

船弁慶 解説 (薪能パンフより)

平家を壇ノ浦で滅ぼす活躍を見せるも、兄

為朝との不和により、今や追われる身となった義経と弁慶主従一行は、西国で再起をはかる為、尼崎大物の浦まで落ちて行きます。静御前も同道していることを知った弁慶は、義経に進言し、静を残しての船出を決めます。別離の酒宴で静は別れを悲しみつつも、義経の無事を祈り、白拍子として健気に歌い、舞いつつ涙ながらに分かれて行く。義経は静との別れを惜しみ、船出を遅らせようとするが、弁慶は船出を強行する。俄かに風向きが変わり、船が荒海に阻まれ、その上不思議に西国で滅びた平家一門の怨霊が海上に現れ、殊に一門でも武略の達者・平知盛の亡霊が義経一行に襲い掛かります。義経も懸命に応戦しますが、怨霊には太刀打ちできないと見るや、弁慶は一心不乱に数珠を押し揉んで退けんとし、終に怨霊は祈り伏せられ、引く汐と共に消え失せ、跡は白波になるのである。